

# 大阪の 社会福祉

The social welfare  
in OSAKA

2019.4  
767

## CONTENTS

- 元氣通信 住之江区清江地域から  
高齢者の支援に向け、地域が主体となって  
アンケート調査を実施—— 2
- 居場所いろいろ 地域共生サロン全員集合！(生野区)  
「ごちゃまぜだから仲良くなれる」—— 3
- 市社協 〈特集〉大阪市地域福祉活動推進計画  
実践者と第三者の視点から社協活動を評価—— 4 5
- 東淀川区 災害にそなえて、一人ひとりができること—— 6
- こんなことやっています！ 私たちの施設から、  
社会福祉法人博愛社 特別養護老人ホーム 博愛の園  
自宅と同じ快適な暮らしを施設でも—— 8



社会福祉 大阪市社会福祉協議会

<http://www.osaka-sishakyo.jp>



当事者としての思いを語る横田宏之さん(左)と  
横田さんが通所するデイサービスの管理者の藤田浩司さん

北区社協 福島区社協 住吉区社協

## 当事者の声を聞き、 自分ができていることを考える

### 認知症の人をささえるまち大阪プロジェクト

大阪市では現在、北区、福島区、住吉区の3区で認知症サポーターの地域での活動促進に関するモデル事業を実施している。2月19日には福島区民センターで、「認知症の人をささえるまち大阪プロジェクト」が

スタートに向けたフォローアップ講座を開催。多くの人が会場に詰めかけた。

まず福島区社協の矢山英夫会長が「このイベントをきっかけに、認知症サポーターの輪が広がることを期待しています」と挨拶。次に、大阪市福祉局の湯川祥さんが、認知症サポーター

地域活動促進事業の概要について説明した。市内モデル3区では、認知症カフェでの活動やゆるやかな見守り支援など地域で活動する意思がある認知症サポーターを「オレンジサポーター」として登録している。自身もオレンジサポーターとして仕事帰りなどに見守り支援をおこなっている湯川さんは、会場の人々に登録を呼びかけた。

(2面に続く)

## HB

博物館や美術館が  
今おもしろい。的確な解説が音声やビデオでなされているからだ。一方、動物園や水族館は、その動物の生態の解説より、色や形に目がいつて、「パンダはかわいい」で終わってしまうことが多い▼それなら一工夫をと、専門家である飼育員に話を聞くと、張り切って動物園に行った。想像通り、彼らの話は面白い。餌のリンゴやバナナは、動物の大きさに合わせて切るサイズを変えているとか、トラが飼育員に愛想を振りまいているのは、個別の識別ではなく、ユニフォームに反応しているからだとか▼一番面白かったのは、ゾウが心の病で休養中だとか。ゾウの心の病がどんなものか知らないが、人気商売はストレスも大きいだろう。私たちが知らない動物園の裏話は、動物への興味を増してくれた▼昔、古典の授業で習った徒然草に、案内人が必要だと書いてあったことを思い出した。きっと福祉の世界も同様だろう。毎年のように変わる制度や法律は、知れば安心できることも、今、役に立つこともいっぱいある。動物園の飼育員には誰がなればいいのか。 (石)



認知症予防運動プログラム  
「コグニサイズ」で身体を動かした

キャラバン・メイドの濱崎崎さんは「65歳以上の4人に1人が認知症と、その予備軍になると言われており、すべての人にとって他人事ではありません」と強調。まずは「認知症を正しく理解することからはじめましょう」と語った。

体操（コグニサイズ）で身体を動かした後、若年性認知症の当事者である横田宏之さんが、経験や思いを話した。「幼少のころから教員になるのが夢で、教員になり忙しかったが、楽しく充実した毎日だった」と語り、生駒市内の中学校教諭として働いていた横田さんに変化がみられたのは2年ほど前。家庭訪問に出かけた時、以前は地図なしで行くことができたのに地図があるにもかかわらず方向がわからなくなり、途方に暮れて

しまうことがあった。のちに横田さんは病院を受診。若年性認知症と診断され、休職をすることになる。「なんで私がこんなことに…」という思いが強かったという。教壇にたてないつらさや、不安に陥っていった当時は振り返った。

休職する前に担任をしていたクラスの生徒たちがこの3月に中学校を卒業する。生徒たちへの思いを強く語った。

現在、横田さんはデイサービス「kumiki」に通所し、他のメンバーとともに昼食づくりなどに取り組んだり、高校時代にテレビ番組で表彰された特技の落語を活かし、余興などをおこなうこともある。そのかたわら「また教壇に立ちたい」という思いで、講演活動にも取り組んでいる。「kumiki」管理者である藤田さんは「認知症の人も、できることがたくさんあることを知ってほしい」と語った。

今回の企画者の一人、福島区社協の山元智美主査は、「横田さんから生の声を聞くことで、認知症への理解が深められたのは、このプロジェクトをきっかけに認知症の方を支援する活動者ももっと増えてほしい」と言う。地域で活動するサポーターの輪が広がることで、認知症の人が安心して暮らすことができる地域づくりが期待される。

## 元気通信

住之江区 清江地域から

高齢者の支援に向け、  
地域が主体となってアンケート調査を実施

清江地域は住之江区内で最も高齢化率（20・5%）が低い地域ながら、近年は高齢者人口の増加や65歳以上

した地域ネットワーク委員会。昨年9月に地域役員、福祉関係者等が集まり第1回地域ネットワーク委員会を開催。その後、継続的に調査実施のための事前学習やワークショップなどを重ねながら、計画の具体化をめざしてきた。町会で把握している高齢者に関しては手渡し、町会未加入のマンション等にはポスティングと、アンケートの交付方法を計画し、実施期間は今年3月1日～20日と決定。

単独世帯（42・6%）が多いことが特徴。同地域ならではの若い世代を中心とした地域活性と並行し、高齢者支援に向けての取組みを強化するため、昨年春から高齢者の実態に関するアンケート調査の検討が進められてきた。実施主体は地域活動協議会、連合振興町会、民生委員、そして若手の地域活動者などで再構成



一つひとつ設問を読みあげながら  
アンケートを最終チェック

「みなさんの協力のおかげでできました。どのように活かすかが大事。これからがスタートです」という作業部会の大西秀幸さんの挨拶の後、約2時間にわたり全員でアンケート内容の最終的な確認作業がおこなわれた。「地域とのつながり」「日頃のお困りごと」「災害への備え」など高齢者のニーズ発掘を主眼とする一つひとつの項目を、誰もが理解しやすいようにと



アンケート完成を祝い、田村会長の音頭で  
クス玉が割られ、クラッカーの音が響いた

の視点で吟味され、さまざまな修正意見が出された。それを住之江区社協が集約し、後日完成版を地域に届けることに。清江地域活動協議会の田村直会長が「みなさんが長い意見交換を経て作りあげたアンケートです。誇りと自信を持ってください」と委員会を締め切った。当初からアドバイザーとして関わってきた梅花女子大学の綾部貴子准教授は「専門家が中心となることが多いアンケート調査。今回のように住民主体で作らなければならないのは極めてまれ」と賛辞を惜しまない。アンケートの集約と分析は新年度（5～6月）に共有され、今後の地域活動に役立てられる。

# 市社協 理事会・評議員会開催

## — 社協の総合力と 基盤強化をめざして

市社協は3月19日に理事会を、3月26日に評議員会を市立社会福祉センターで開催した。平成31(2019)年度事業計画及び予算(案)について審議され、すべて原案どおり承認された。理事会では諸規則等の一部改正(案)、評議員会の開催(案)についても審議され、原案どおり承認された。

市社協では、3か年計画として「大阪地域福祉活動推進計画」を策定・推進しており、本年は、その2年目にあたる「担い手」「居場所」「見守り」の3つの重点目標に掲げる取組みについて、絶えず評価・検証結果を反映しながら、市社協・区社協一体となって推進していく。

### (4・5面に関連記事)

複合的な困りごとが増加し、全市的な相談支援体制の整備が進められる中、社協の総合力を一層発揮し、地域住民と福祉専門職の連携による分野を横断した支援体制の構築をめざした取組みをすすめていく。

また、近年、大規模災害が多発している中、初動対応を的確に進めるとともに、市民の生活復旧やその後の生活支援に向けて、迅速かつ効果的な支援がお

## 基盤強化をめざして

こなえるよう、事業継続計画(BCP)を策定し、社協事業の早期復旧をめざすなど必要な災害対策を推進していく。さらに、自律的な事業運営に向けた組織基盤の強化を図ることなどを、事業計画で掲げている。

評議員会では、計画の評価に関する意見も寄せられたところであるが、市社協としてPDC Aサイクルに基づく、評価・改善にも力を入れ、事業推進を図っていく。

### ◆平成31(2019)年度事業計画◆

- 1 自律的な事業運営に向けた組織基盤の強化
- 2 「大阪地域福祉活動推進計画」(平成30～32年度)の推進
- 3 地域生活課題をふまえた地域福祉活動推進の支援
- 4 総合的な相談支援体制の充実
- 5 権利擁護に関する取組みの推進
- 6 大規模災害発生時に備えた災害対策の推進
- 7 ボランティア・市民活動の推進・強化
- 8 中立・公正な立場にたった事業の展開
- 9 福祉人材の養成及び情報の発信
- 10 福祉関係機関、団体との連絡協同
- 11 広報啓発活動の充実

※くわしくはホームページに掲載

## 居場所 いろいろ

- 8 -

2月23日、生野区ボランティア・市民活動センターで「防災体験イベント」誰もが取り残されない防災を「考える」が開催された。この催しは、誰もが参加できる居場所として、毎月第4土曜日におこなわれている「地域共生サロン全員集合!」が共催している。

輪母ネットワーク代表の吉田琴美さんは、企画意図について「震災では多くの障がい者が犠牲になったが、支援の仕方によっては助かる人もいた。だから障がいのある人の防災を通して地域共生を考えていきたい」と話す。

東日本大震災関連のドキュメンタリー映画上映、すぐに役立つ防災セミナーのほか、調理器具を使わない炊き出し体験のコーナーでは、ちぎった野菜、洗った米をポリ袋に入れ熱湯で30分、おいしいカレーが盛況だった。混み合う会場で来場者は「いろんな人が来ている、ごちゃ混ぜ感がいい雰囲気」と話した。防災グッズコーナーには、聴



左から西浦さん、吉田さん、太田さん

### 地域共生サロン全員集合!

- ・主催: サロン・アイ、地域共生ケア生野推進委員会、社会福祉法人ストローム福祉会、つづり、輪母(わはは)ネットワーク
- ・日時: 第4土曜日 13:30~15:30
- ・場所: 生野区ボランティア・市民活動センター 2F多目的室(生野区勝山北3-13-20)
- ・対象: どなたでもご参加いただけます
- ・料金: 無料
- ・問い合わせ: 生野区ボランティア・市民活動センター(生野区社協) 06-6712-3101

## ごちゃ混ぜだから仲良くなれる

~地域共生をめざす 全員集合!~

覚が過敏な人に便利なイヤーマフ、障がいのある人向けのコミュニケーションシヨントールを展示。グッズを通して障がいの理解を深めてもらう。「障がいのある人をベースに防災を考えると、高齢者や乳幼児、持病のある人にとってもつながる防災であることに気づく」と吉田さん。



防災セミナー「みんなで非常用持ち出し袋を作ろう!」

「地域共生サロン全員集合!」は、地域共生ケア生野推進委員会のたまり場事業として平成25年より毎月開催。赤ちゃんから高齢者まで、国籍、性別、障がいの有無を問わず、誰もが参加できる場をめざしている。これまで紙芝居や手作りの工作や木工、生ギターで歌って踊る音楽会などを開催。一緒に活動するサロン・アイの西浦清輝さんは、全員集合の度にコーヒールを入れて「落ちつける居場所」をつくり出している。場づくりのポイントとは「親しみやすい関係を築けている」と社会福祉法人ストローム福祉会つづりの太田ひとみさん。「参加者が自然に助け合うので、初めてボランティアをする人もなじむ」そうだ。リピーターが多く、クリスマス会では、来場者が100人を超えることもある。

壁をつくらない、枠に入れない関係性の蓄積が地域共生の第一歩なのかもしれない。

# 実践者と第三者の視点から 社協活動を評価



評価会議の様子(右から反時計回りで、山田委員、松下委員、鈴木委員、福田委員、中西委員)

大阪市地域福祉活動推進計画はこちらから



市社協は、平成30年度からの3か年計画として「大阪市地域福祉活動推進計画」(以下、計画)を推進しています。1年目の総括として、3つの重点目標(①担い手、②居場所、③見守り)ごとの市社協による取組み(全12項目)を中心とした、評価・検証を実施しました。

## 計画1年目は市社協が進める事項の評価から

計画には、広く民間の地域福祉活動の推進について記載されていますが、1年目(平成30年度)の評価は、市社協が具体的に事業推進している事項から着手しました。

独自の評価様式により、市社協各担当がふりかえり(自己評価)を実施したうえで、1月30日に「評価会議」を開催。メンバーは計5人。地域福祉の実践者3人と研究者、第三者性をも

った外部委員で構成されています(表1)。

重点目標ごとに、市社協から評価様式により取組み状況を報告し、評価できる点、課題と思われる点を出し合いました。

## 現場視点・外部視点を 取り入れて評価

中西委員は、施設の立場から「社会福祉法人の公益的な活動はまだまだ少ない。施設だけでなく、完結する取組みではなく、もつと地域との協働が必要」と発言。市社協には、推進に向けた

表1：評価会議委員(平成31年3月時点)

	所属	名前
地域福祉活動 推進委員会 委員	神戸医療福祉大学 准教授	鈴木 大介
	社会福祉法人 四恩学園 理事長	中西 裕
	NPO法人 にしよど にこネット 代表理事	福田 留美
	東住吉区 東田辺地域福祉サポーター	松下美佳子
外部委員	野村総合研究所 プリンシパル	山田 謙次

※鈴木委員は平成31年4月から、大阪成蹊短期大学准教授

要因分析が期待されると話し合われました。

NPOで居場所づくりに取り組む福田委員は「立上げ支援は助かるが、継続することの課題もある。区社協などが気持ちの面からつながってサポートしてくれると心強い」とコメント。地域会館を拠点に活動する松下委員は、名簿を活用した見守り

活動について「名簿掲載に同意した人へ地域から訪問しても、同意した認識がないこともある。同意したことを思い起こせるツールがあれば」と提起しました。

山田委員は、各取組みを俯瞰しながら「社協として、情報収集は得意だが、発信結果や活用状況はどうか」と投げかけ、必要とする相手に必要な情報をコーディネートして、具体的な動きへとつなげることが大切であると確認しました。

会議終盤は、進行役の鈴木委員が中心となり、評価結果を総括し、今後に向けた課題について整理しました。(表2)

## 評価は「活動の よりよい推進に 向けた仕掛け」

評価会議での評価・検証結果は、2月22日に開催された第37回大阪市地域福祉活動推進委員会（以下、委員会）で報告。それを受けての議論として、1年目の評価を踏まえて3年間の目標修正が必要な項目もあること、また、評価会議による評価・検証については、今回用いた方法・視点を基本に、必要な修正を加えながら取り組んでいくことなどが確認されました。



評価・検証結果を今後の推進につなぐ（第37回 委員会）

2年目は、今回実施した市社協が進める事項の評価とともに、新たに民間活動の評価についても検討していく予定。

委員会では、こうした一連の評価は「活動がよりよく推進されるための仕掛け」であると確認してきました。市全体の地域福祉活動のよりよい推進の一助となるよう、市社協では、今回の評価でいただいた指摘や提案に対する改善方を検討し、新年度の取組みへとつないでいきます。

表2：大阪市地域福祉活動推進計画の評価（1年目）の概要

総評（第37回委員会での報告資料をもとに要約）		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・項目ごとに1年目のめざす状態像に対してアプローチがなされている。一方で、各事業の相乗的な実践の工夫を期待したい。</li> <li>・福祉分野に限らない、企業等との連携・協働に向けての取組みが始まっている。今後、より積極的なアプローチが期待される</li> <li>・ボランティアや市民活動等への財源的支援について、柔軟な支援が可能な枠組み（時期や用途など）の検討が必要である</li> <li>・情報発信や民間性（開拓性・即応性・柔軟性）の強化は、社協全体で取り組むことが求められる</li> <li>・社協組織全体で取り組み、職員としての、いわゆる地域福祉援助の視点強化を検討することが求められる</li> <li>・連携の場づくりや情報収集はしているが、その知見の共有、フィードバック、活用は十分ではない</li> </ul>		
重点目標	市社協が中心となって取り組む事項	評価会議での意見（一部）
①地域福祉を担う人を広げる（担い手）	<ul style="list-style-type: none"> <li>1-1 地域福祉活動者研修体系の構築</li> <li>1-2 住民相互の助け合い活動の展開支援</li> <li>1-3 社会福祉法人の公益的活動の推進支援</li> <li>1-4 企業・商店の地域貢献活動への支援</li> <li>1-5 市民後見人の養成・支援</li> <li>1-6 大阪市ボランティア活動振興基金による支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査や成果物（ガイドブックなど）について、作成して公開するだけでなく、それを使って動きをつくっていくところまでは踏み込めていない</li> <li>・活動団体が財源を求めているも、使途の制限などにより助成金が使えないことがある</li> </ul>
②人が集い・つながる場を広げる（居場所）	<ul style="list-style-type: none"> <li>2-1 地域子ども支援ネットワーク事業の実施</li> <li>2-2 居場所づくりの実践事例の収集と発信</li> <li>2-3 基金・共同募金等による居場所づくりへの助成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居場所の広がりはあるが、明らかになった課題（運営・継続性、利用者にとっての居場所の意義、本質や目的の再確認など）への対応が必要</li> </ul>
③地域で見守り・気かけ合う関係を広げる（見守り）	<ul style="list-style-type: none"> <li>3-1 地域の見守り活動の推進に向けた支援</li> <li>3-2 地域の相談支援体制の充実に向けた取組み</li> <li>3-3 相談機関の全市的な連携強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケースが重度化する前の早期の気づき、アプローチが必要</li> <li>・社協等の専門職が細分化されて、役割がわかりづらくなっている</li> </ul>

※「市社協が中心となって取り組む事項」については一部項目名を省略して表記しています。

災害にそなえて、  
一人ひとりができること

昨年は災害が立て続けに起こったことから、災害にそなえて、地域が主体となり、また関係機関とも協働して、それぞれの立場で一人ひとりに何ができるのかを考える契機となった。市内各区・地域でさまざまな取組みがおこなわれているなか、今回、東淀川区の取組みを紹介する。

## 避難所運営ゲーム・HUG

## 東淀路・柴島地域

2月6日、東淀路・柴島地域活動協議会は、地域交流センターで避難所運営ゲームHUG（ハグ）を開催した。昨年、大阪北部地震や台風21号の際、避難所を開設したが、初期行動にとどまっていた。実際の運営はどうか、避難者の受け入れ・対応を模擬体験するゲームを通して、体得してもらうのが開催のねらいだ。会場には、町会長、防災リーダー、過去の避難訓練参加者など、約60人が集まった。

区役所の担当者が避難所運営とゲームのポイントの説明後、



本番さながらの表情でチャレンジ

班に分かれスタート。メンバーの1人が避難者情報を記したイベントカード全部250枚を

順に読みあげ、他のメンバーは内容に配慮しながら、避難所平面図にカードを配置する。避難者は、年齢、性別、国籍、家族構成のほか、車いす利用、酸素ボンベが手放せないなど各自の事情があり、さらに救護物資だけ求める人やマスコミもいる。

振り返りでは、重度障がい児がいる家庭、盲導犬と同伴の避難者への対処法など受け入れ時に大切にしたいポイントを参加者みんなで共有した。

開催を呼び掛けた事務局長の高田宏志さんは「状況設定は、すべてあり得ることばかり。想像力がモノを言う。各町会でもやってほしい」。会長の辻林宏孝さんは「事例をどう判断して避難してもらうか。頭の体操になった」と話した。

## 避難所開設運営訓練

## 菅原地域

2月24日、菅原地域活動協議会は菅原小学校で避難所開設運営訓練を実施した。自主防災組

織がどのように対処すべきなのか、ワークシヨップで学習や話し合いを



動物が描かれたピクトグラム表示の場所に実際にペットも避難

重ね、地域の実情に合わせた独自のマニュアルを作成。地域防災リーダー隊長の堤下哲也さんは「毎年の積み重ねから、さらによい取組みにしたいとの思いとみんなの協力があつて、リアルに考えられる訓練となった」と語る。

実際に災害が起こると、さまざまな状況の人が訪れることが想定される。一つの教室を妊婦さんや乳児専用の部屋にし、「パーティションで間仕切りして授乳スペースを作る」など、ある物を活用しながらプライベート空間を確保していた。NPO法人女性と子育て支援グループ・pokapanの渡邊和香さんは「何よりも安心できる環境を作ること。混乱はあるが、配慮が必要な方へ一人ひとり意識することが大切」と話す。

グラウンドではケージを設置し、区役所職員で獣医でもある松尾雅史さんが「お互いが助け合えるよう普段から近所や飼い主仲間と話し合う」「苦手な人やアレルギーがある人への配慮」など、ペット動物の災害対

策のポイントを説明した。

また、大阪成蹊学園の学生が考案したピクトグラム（絵文字）が初披露され、各室の入口をわかりやすく表示。車いす利用者の移動や情報伝達訓練、炊き出しなど、いろいろな場面が想定できる取組みとなっていた。堤下さんは「運営側はある程度イメージできた。来年は多くの地域住民にも参加を促していきたい」と語った。

## 防災減災講座「災害にそなえる」長持ちするブルーシートの張り方

## 東淀川区社協

東淀川区社協は、東淀川区役所・東淀川消防署との共催で、3月5日、区民ホールで防災減災講座「災害にそなえる」長持ちするブルーシートの張り方」を開催した。災害時、屋根が損傷する被害が多く、これに対応できる知識や技術をボランティアや地域の方等に学んでもらうのが目的だ。まず、消防署



支援体験から得た貴重な技を伝授

が、大阪府北部地震の実例写真を用いて紹介。地震時の火災原因と被害を大きくしてしまわ

ないための対策をわかりやすく説明した。次に、区の保健福祉課安全安心企画担当係長・小谷丈志さんが「防災マニュアル」「ハザードマップ」を利用した「今できる」防災について話した。後半は、屋根のシート張りの実演。NPOLスキューアシストの中島武志さんは、シートを固定するために、人手がかかる土嚢袋を使わず、野地板を張り、辺で押さえる「茨木方式」を紹介。ビスで止め、その上からブルーシートをかけると安定することがわかった。熱心な参加者の質問に答えて、屋根瓦の安全な歩き方も、丁寧に解説した。区社協の西池深音さんは「大災害が起きたとき、自分だけではどうにもできない状況になる人が必ず出てくる。そんな人を支えるためには専門知識や、知識を共有できるボランティアのつながりが必要。地域やボランティア、工務店などが一緒にできるようになるのが理想」と話す。自助にも公助にも限界があるなか、企業と地域が連携する共助があれば心強い。屋根のシート張り講習は、淀川区社協（2月9日）や住之江・住吉区社協（共催）（3月17日）などでもおこなわれた。地域や団体、学校、関係機関など、つながりや強みを活かした取組みが広がっている。

# 寄附 みなさんの善意を 社会福祉の発展に 収受

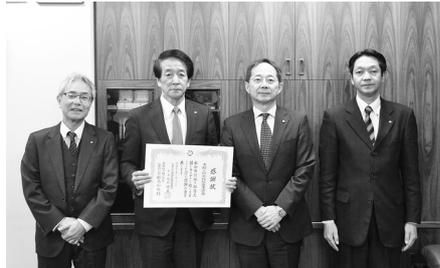
市社協ではさまざまな福祉事業に活用させていただくため、寄附を受け付けています。

2月28日、大阪硝子株式会社から、会社設立50周年として、市社協に対し、50万円が寄附された（一般寄附）。

贈呈式では、大阪硝子(株)の新名和也代表取締役社長から寄附金を手渡され、その後、市社協の浅井俊之事務局長から、感謝状が手渡された（写真）。

社会福祉の各種事業に幅広く

活用させていただきます。



写真左から、大阪硝子の富士尾管理部  
長、新名社長、市社協浅井事務局長、  
大阪硝子の藤木統括部長

## 第13期市民後見人養成講座 受講事前オリエンテーション

判断能力が十分でない人の権利を守る「成年後見制度」において、住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう身近な立場で支援する「市民後見人」を養成するため、社会貢献への意欲と熱意のある市民の方を対象に「市民後見人養成講座」をおこないます。2019年6月からの本講座の受講申込みにあたり、事業の趣旨をご理解いただくためオリエンテーションを開催します。

**対象** 大阪市在住または在勤で社会貢献に意欲と熱意のある  
24歳以上68歳以下の方（2019年3月31日現在）

※後見業務の養成研修を実施する団体に所属している方、または親族以外の方の後見人として活動している方は対象となりません

**日時・会場**

**第1回** 5月15日(水) 午後2時～4時

大阪市立住まい情報センター 3階ホール(北区天神橋6-4-20)

**第2回** 5月16日(木) 午後6時30分～8時30分

大阪市立住まい情報センター 3階ホール(北区天神橋6-4-20)

**第3回** 5月18日(土) 午後2時～4時

大阪市社会福祉研修・情報センター 5階 大会議室(西成区出城2-5-20)

**内容** ①成年後見制度の概要と市民後見人の役割

②市民後見人養成講座の受講について

**定員** 各100名(先着順)定員を超えた場合のみご連絡します。**参加費** 無料

**申込方法** 住所、氏名、年齢、電話番号、参加希望日(第1・2・3回のいずれか)を記載のうえ、ハガキ・FAXまたはメール(yousei@shakyo-osaka.jp)でお申し込みください。

※締め切りは各日程の2日前。

**申込先** 大阪市成年後見支援センター(市社協)

〒557-0024 大阪市西成区出城2-5-20

☎06-4392-8282 fax 06-4392-8900



## 風をよむ

専門職の充実が望ましいことは事実であるが、単に専門

千葉県野田市の児童虐待事件などを受けて、児童福祉のシステムについて批判が高まっている。児童虐待防止法の改正や児童相談所の機能強化などが提案されており、その中で、児童福祉分野の国家資格をめぐって議論がおこなわれている。

今回のような事件が発生するたびに、専門職や資格に偏った議論がおこなわれることにはやや違和感を覚える。

## 児童虐待防止をめぐる議論を考える

大阪市立大学大学院 生活科学研究科 教授 所道彦

が特に重要である。しかし、児童虐待の件数は急増している一方で、日本では人口減少社会を迎え、労働力人口は減少していくことが予想されている。この数年、日本の労働市場では人材獲得競争が展開されている。必要な数の人材を確保すること自体が徐々に難しくなっている業界もあり、外国人労働者の受け入れなどが進められている。このような社会状況で、相談機

職の養成課程の内容を増やしたり、職員の研修時間を増やしたり、新たに専門職や有資格者を配置するだけで、問題が解決するほど簡単な話ではない。まずは、社会問題を専門職や資格の問題に置き換えてしまうことがないように注意したい。

専門相談機関の質を上げるために必要なことは何だろうか。どのような業界・分野でも、優秀な人材を集めること

の専門職だけが、簡単に増えるということは考えられない。社会福祉の領域の中だけで人材養成を議論しても限界がある。「右肩下がり」の時代における社会福祉のあり方が問われていると言えよう。そして、虐待について事後的な対応の強化だけでは、本当の意味で問題の解決にはならない。虐待の根を減らすための取組みが求められている。報道等が増えたことによ

り、社会的な認知度は高まっているものの、虐待という現象そのものについて、社会全体として、何か「わかった気」になっているのではないかと。それぞれのケースは個性があつて、簡単に一般化できるものではないが、虐待を取り巻く生活の構造的な面についても、もう一度議論を整理し、引き続き調査研究の蓄積を進めていくことも重要と言える。

博愛の園は、法人創設129年の歴史を持つ博愛社の高齢者事業の一つです。博愛社は1890年、小橋勝之助により、キリスト教の精神にたって子ども達を育む施設(児童養護施設)として設立されたのがはじまりです。1998年には100周年事業の一環として「特養博愛の園」(定員73名、ショートステイ12名)、「ケアハウスはくあい」(定員30名)が設立されました。また、2017年にサテライト型特養「清心館」(定員計29名)を開設しました。

私たちの基本方針は、障がいがあっても、認知症になっても(施設に入って)

寄りの目の前で調理しています。また日中、フロアやエレベーターなどを施設することはありません。職員が常に見守りを心がけ、利用者さんの自由を尊重しています。

特養のほかに、2000年に在宅介護サービスとして「はくあい介護サポートセンター」を開設。拠点の一つである「デイサービス生活屋(いきいきや)」は商店街の空き店舗を活用しており、認知症の方を受け入れています。日頃から商店街で働く人々と親しくなり、ご自宅から行方のわからなくなった利用者さんの情報を得られたこともありました。

## 自宅と同じ快適な暮らしを施設でも

も)、地域で普通に暮らせるよう支援することです。一人ひとりに寄り添い、その方の生活リズムに応じて過ごせるよう、小規模のユニットケアで支援しています。各ユニットで自由に使えるユニット費を設け、ユニットの独立性を高めています。ご近所の方を優先的に入居してもらっており、入居後もご家族や職員が同行し、なじみの場所への外出をサポートするなど、地域とのつながりの維持にも配慮しています。

日々の食事は、「博愛の園」では直営の厨房で調理。「清心館」では、毎日3食とも職員が各ユニットにてお年

私たちは、利用者さんと接する際に「心地よい言葉遣い(敬語)と穏やかな対応」を心がけています。また、「動き出しは当事者から」を基本に、時間はかかっても利用者さん自身の言動を待つよう努めています。このような利用者さんの立場にたった「博愛ケア」を今後も継続し、さらに充実させていきたいと考えています。

住所 〒532-0028 大阪市淀川区十三元今里3-1-88  
Tel 06-6301-8901  
HP <http://www.hakuaisha-welfare.net/>



こんなこと  
やっています!

私たちの施設から♪

24

社会福祉法人 博愛社  
特別養護老人ホーム 博愛の園

### 手話入門

【新しい】

すぼめた両手をばっと前に出して広げる。

【お詫言ひ】

本誌3月号(No.766)6面に掲載しました、「みんなの学校」上映会&シンポジウムの掲載記事の中の北野病院小児科未熟児新生児部門部長のお名前(一丁目左から9行目)について、次のとおり訂正し、お詫びいたします。

正 水本洋さん 誤 水谷洋さん

- 2019年度共同募金配分申請受付(2020年度事業対象)  
大阪府共同募金会では、大阪府内で行う民間社会福祉事業、更生保護事業、その他社会福祉を目的とする事業を行う法人・団体に対する配分申請を受け付けます。  
▶申請書受付期間=2019年5月1日(水)~20日(月)まで
- 2019年度河原林富美福祉基金配分申請受付(2019年度事業対象)  
大阪府共同募金会では、河原林富美福祉基金により、社会福祉推進事業の支援でこれまであまり手を差し伸べていなかった福祉の狭間の事業や福祉の周辺領域で支援を要する事業に対する配分申請を受け付けます。  
▶申請書受付期間=2019年5月31日(金)まで

一定条件が必要ですので、詳しくは、大阪府共同募金会ホームページ <http://www.akaihane-osaka.or.jp> をご覧ください。

赤い羽根おおさか 検索

問合せ=大阪府共同募金会  
TEL: 06-6762-8717 FAX: 06-6762-8718  
Eメール: [ai-kibou@akaihane-osaka.or.jp](mailto:ai-kibou@akaihane-osaka.or.jp)  
(件名に「配分申請について」と明記してください)

立ちどまらない保険。  
MS&AD 三井住友海上

## 三井住友海上の安心

# GK

1児までの保険 住まいの保険 介護の保険

[www.ms-ins.com](http://www.ms-ins.com)